

〔論説〕

イスラエルにおける日本研究

ベン・アミー・シロニー（倫理文化研究センター研究フェロー）

昨年（2016年）8月にテレビで放送された、譲位のご意向を伝える天皇陛下の「おことば」が多くの日本人を驚かせた。長い間、天皇の存在と共に生きてきた日本人だが、最近では天皇や皇室に対して無関心な国民も多い。この「おことば」は、日本と世界が天皇という存在について改めて考えるきっかけにはなった。しかし、日本の歴史と、天皇制という日本独特の在り方を理解しない限り、この譲位をめぐる問題だけでなく、日本の歴史上に起こったさまざまな出来事に関して理解することは難しいと思われる。

学生を日本研究へ向かわせている要因

最近では、日本に関する研究がさまざまな国で行われているが、そうした国の一つにイスラエルがある。イスラエルにおける日本研究は、はじめは東アジア研究の一部であったが、過去数十年の間に国内諸大学の人文学科や社会科学の学部で最も盛んな分野の一つになった。

イスラエルにおける日本研究は、1960年代初頭にエルサレム・ヘブライ大学に中国・日本研究学部が設立されて産声を上げた。その後、この25年間で急速に拡大し、現在ではヘブライ大学に加え、テルアビブ大学、ハイファ大学の東アジア研究学部を中心に、国内の諸大学における東アジア研究の科目数も増えている。今では驚くほどの多くの学生がこうした学部や科目に登録していることは、イスラエルの若者の間で東アジア研究の人気がかつてないほど高まっている証拠であろう。

人口が約800万のイスラエルは、人口規模のわりには日本研究者や日本研究を専攻する学生の比率が高く、その割合は世界最高の部類に入る。30人以上の職業研究者が日本研究の分野で、あるいは専門分野が別でも日本を中心にした研究で博士号を取得している。総合大学やカレッジ語学学校で教えている日本語教師も数十人おり、学部、大学院を合わせて300人を超える学生がイスラエル国内の大学で日本研究を専攻している。テルアビブ大学では日本の伝統芸能、文化、社会、宗教を教える科目を設置しており、ハイファ大学では特に日本の現代社会と文化に重点を置いている。

1970年代と1980年代は、「日本経済」が世界中の学生を引き付けた大きな要因となっていた。しかし、当時とは異なり、今日、日本研究へ学生を誘っているのは日本の現代文化やライフスタイルである。学生の関心は日本の企業文化や経営技術、経済から離れ、漫画やアニメ、テレビゲーム、Jポップ、ファッションなどに移っていった。若者は日本の首相の名前や経団連については耳にしたことがないかも知れないが、ポケモンやドラえもん、ハローキティについては非常によく知っている。全世界では数千万人もの若者が日本の漫画やアニメ、ゲームを買い、大勢の若者が東京から発信される陽気で快活な都市文化に夢中になっている。

この20年間で、日本のポップカルチャーに対する世界の興味と憧れは、急速に膨らんできたといっても過言ではない。事実、日本のポップカルチャーは、国境を越えて急速に海外へと広がっている。とりわけ日本のアニメと漫画に対する関心は、近隣諸国だけでなく、ヨーロッパや北米、中東、イスラエ

ルでも見られる。その強い関心は、日本語を学ぶ学生数の増加に現れている。「国際交流基金」(The Japan Foundation)によると、海外の若い読者が漫画やアニメを買って読んでいるため、日本語学習の人気がかつてないほど高まっているという。日本国外における日本語学習者の数は、1979年の12万人から2009年には365万人へと増加している。

イスラエルの大部分の学生は、日本のポップカルチャーに興味を持ったことから日本研究を専攻するわけだが、大学に入学した学生に対して私たち教師は、日本の歴史、文化、政治の科目を取るよう薦めている。大学の日本研究課程では、日本語はもちろんのこと、日本の近世の歴史、伝統文化、天皇制、芸術、社会、政治、外交関係など、日本に関するさまざまな科目が設けられている。